

新型コロナウイルス感染症のために、もどかしい日々が続いていますが、今日はうれしい儀式が行  
 われます。それは、午後2時の「教会学校と青年たちとのミサ」の中で、二人の子供たちが初めてイエ  
 ス様のご聖体をいただく「初聖体」です。例年と比べたら、今年はたった1か月の短い勉強会でした  
 が、毎週、勉強会を設けて準備したので、イエス様も喜んでその二人にご自身の命を与えてくださ  
 ると信じています。そもそも子供たちの初聖体とは、教会全体のお祭りのようなもので、皆がイエス様  
 の御体である一つのパンを分け合いながら、イエス様の命に与り、皆がその命に養われる人である  
 ことを表すのです。残念ながら、今日は皆が集まってその喜びを共にすることはできませんが、二人  
 の子供たちの初聖体をもって、各自の信仰を改めて新たにすることができれば幸いです。そして  
 今日はそういう観点で、福音の御言葉を分かち合いたいと思います。

今日の福音で、イエス様は12年間も出血の止まらない一人の婦人を癒やされ、また、どういう訳か  
 分かりませんが、突然命を失った12歳の少女を甦らせました。今日の福音はその少女の父親で  
 あるヤイロという会堂長のイエス様への訪問から始まります。彼は死にそうな状態にある自分の娘を、  
 イエス様に手を置いて癒していただきたいと願いました。そこでイエス様は彼と一緒にヤイロの家に向  
 かいましたが、大勢の群衆もイエス様についてきました。ところが、途中でイエス様は12年間も  
 出血の止まらないある婦人のために足止めを食うことになりました。彼女は多くの医者にかかって、酷  
 く苦しめられ、全財産を使い果たしましたが、病気は治るどころか、むしろ、悪化しました。その苦し  
 みの中で、彼女はイエス様に助けをいただこうとして、群衆の中に紛れ込み、イエス様の後ろからその  
 衣服に触れました。それだけで自分は癒されると信じたのでしょう。そして、その信仰通りに、彼女の  
 出血は全く止まりましたが、それからはイエス様の前に自分を露にせざるを得なくなりました。なぜ  
 なら、ご自分の内から力が出て行ったことに気づかれたイエス様が、ご自分に触れた人を探し始められ  
 たからです。その姿に恐れを覚えた彼女がイエス様にすべての次第を打ち明けると、イエス様は彼女の

信仰を誉め、また、励ましてくださいました。

しかし、その喜びのさなかに、会堂長の娘が死んでしまったという悲しい知らせが届きました。きっと会堂長は大きな悲しみと恨みに包まれたでしょう。でも、イエス様は彼に「恐れることはない。ただ信じなさい。」と言われ、彼と一緒に少女の死の現場に行かれました。そして、大声で泣き騒いでいる人々を外に出し、少女の親と3人の弟子たちだけを連れて少女の所に入られ、少女の手を取って「タリタ、クム。」と言われました。すると、少女は起き上がり、歩き始めましたが、イエス様はその出来事を誰にも知らせないようにと命じ、少女に食べ物を与えるようにとおっしゃいました。いったい、今日のこの福音はわたしたちに何を示しているのでしょうか。

まず見えてくるのは、イエス様が命の主であるということです。イエス様は今日の出来事を通して、第1朗読の知恵の書が語っているように、命の与え主である神様がご自分を遣わされたことを表わされました。知恵の書は、神様が死を造られたわけではないと強く断言しつつ、その死は悪魔の妬みの結果だとも語りました。人間はその悪魔の企みに躓いて、神様から頂いた永遠の命を失ってしまいましたが、神様はその人間を救うために、ご自分の独り子であるイエス様を世に遣わされたわけです。そのイエス様は御言葉と行いを通して、人間は神様だけに信頼を置き、神様だけに従うことによって、失った不滅の命を回復できることを示されました。聖書はその信仰と従順を「義」という特別な言葉で表しますが、イエス様はその義を十字架の死をもって完全に見せられたのです。そのイエス様が今日の福音で最も強調されたのは「信じること」でした。イエス様は病を患っていた婦人には「あなたの信仰があなたを救った。」と言われ、娘を失った会堂長には「ただ信じなさい。」とおっしゃったでしょう。それはイエス様ご自身が御父に向かって持っておられた信仰で、イエス様はそれと同じ信仰を、今日の福音を通して私たちにも教えられたのです。その信仰は神様の慈しみと愛への信仰で、イエス様はその慈しみと愛による救いを成し遂げられ、ご自分を信じる人々、つまり、教会に新しい永遠の

いのち ゆだ 命を委ねられました。それは、きょうかい とお 教会を通してそのいのち ゆた 命がもっと豊かになるためのことでしょう。きょう 今日の  
だいにろうどく し と 第2朗読で使徒パウロはコリントのきょうかい まず 教会に、貧しいエルサレムきょうかい 教会のための支援を勧告しています。パ  
ウロは「釣り合い」ということば もち 言葉を用いてそれをたの 頼みました。それはコリントのきょうかい 教会がエルサレムきょうかい 教会  
からイエスさま すく 救いの福音を受け継いだので、それにふさわしくむく 報いなさいと言うふう 風に聞こえますが、  
それはただの「ギブ・アンド・テイク」ではなく、「たが あい あい 互いに愛し合いなさい」という、イエスさま おきて に  
したが 従うことでしょう。じっさい あい わ 実際、愛の分かち合いはいのち わ あ 命を分かち合うことで、かみさま しんこう じっせん 神様への信仰を  
実践するいちばんすぐ り 優れた方法なのです。きょうかい あい わ 教会はその愛の分かち合いによってしんこう あか 信仰を証しし、また、せいちょう 成長して、かみさま くに  
このよ あら 世に現わしていくのです。

さて、きょう ふくいん びょうき ふじん て の 今日、今日の福音で病気の婦人は「手を伸ばしてイエスさま ふ 様に触れ」、また、イエスさま みずか て の  
ばして死んだし しょうじょ て と 少女の手を取って」お あ 起き上がらせました。きょう はつせいたい ふたり こども 今日、初聖体をいただく二人の子供たちは、こ  
れからはわたし どうよう どうよう じぶん て 同様に「自分の手でイエスさま せいたい ふ 様のご聖体に触れ」、いただくでしょう。このえいえん いのち  
のえん いちばんひつよう まごころ しん 宴に一番必要なのは「真心からしんこう こ 信じていただくべきです。て  
だけただ だ 出すことよりも、そのて 手でいただくイエスさま しんこう だいじ 様への信仰が大事なことです。きょうかい どうよう 教会も同様に、い  
かにかっぱつてき かつどう 活発的に活動していても、また、ちしき けいけん じんざい かね と 知識や経験、人材やお金もあふんでいても、あい かみさま しんこう か  
けていたら、わたし い み 私たちは意味のないものになってしまうのです。これからもいきいきとしたしんこう も 信仰を持って、  
みな 皆がイエスさま せいたい やしな 様のご聖体で養われ、また、そのあい じっせん 愛を実践することができるよう、いの いた お祈り致します。